

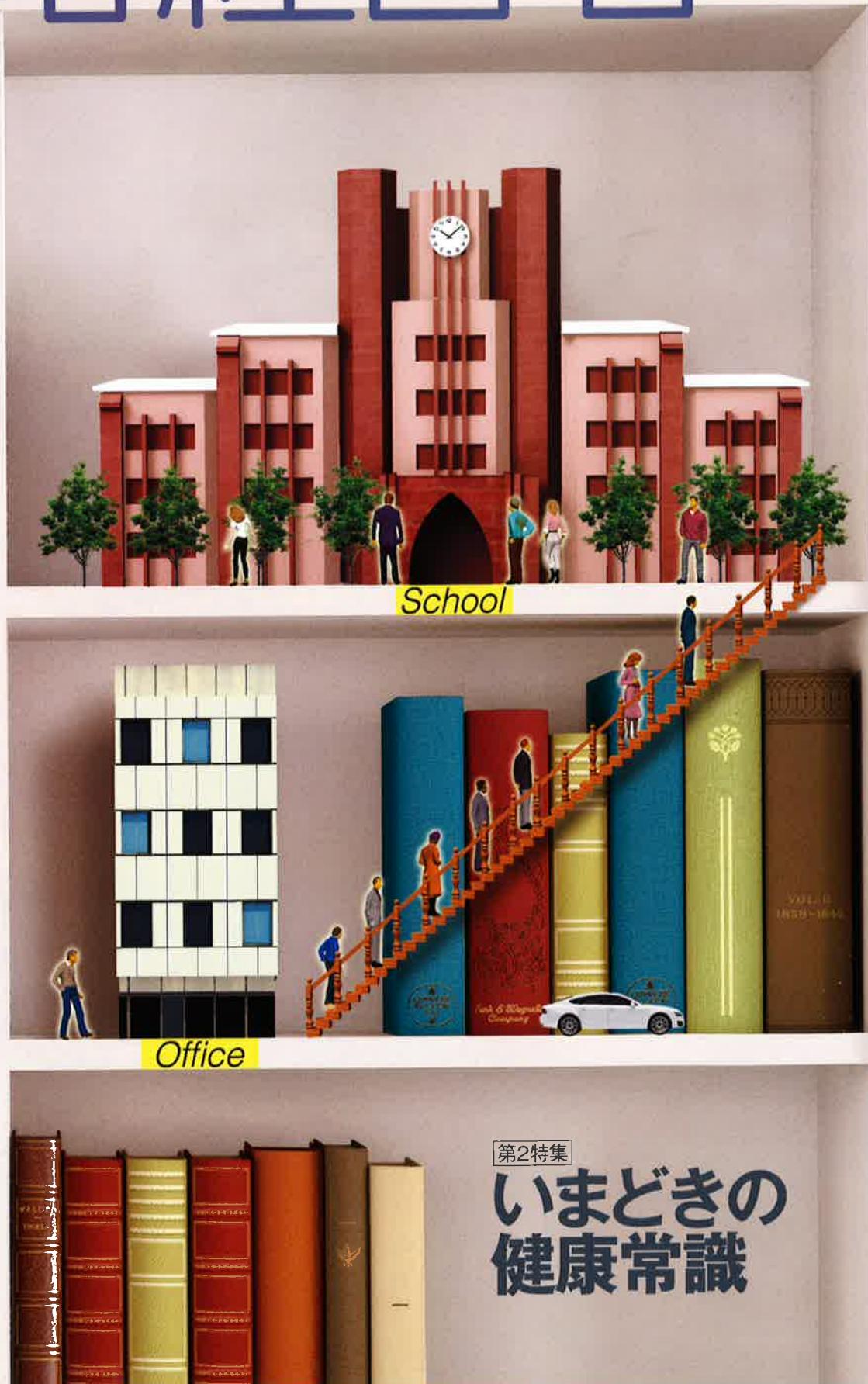
年商50億円を目指す企業の情報誌 The Strategic Manager

戦略経営者

8
2019
August
No.394

大学で学び直す

特集



いいまどきの健康常識

従業員の健康状態に配慮する「健康経営」が呼ばれるなか、経営者に求められる新たな健康常識とは――。デジタル端末や怒りの感情との付き合い方など、手軽に実践できる健康管理法を専門家が解説する。

オープニングインタビュー

東京脳神経センター 脳神経外科医 天野恵市

生産性低下の要因は「情報過多 syndrom」にあり

近ごろ物覚えがわるくなり、しかも頭の中にインプットした事柄をなかなか思い出せない――。働き盛りのビジネスパーソンから相談を受けるケースが増えていきます。認知障害に類似するこうした症状を「オーバーフロー認知症」と私は呼んでいます。脳の限界容量をこえて情報を詰め込むから、脳が機能不全をきたしているのです。満員電車や過積載のトラックと同様の状態といえるでしょう。

背景にあるのはインターネットの普及です。ネットの世界は玉石混交。ある意味、ゴミの山ともいえます。例えばガンと診断された場合、多くの人はネットで治療法を調べるはずです。治療法を片つ端から集めれば、まじないや宗教めいた事柄も紛れ込んでくるでしょう。いわゆるフェイク情報ですね。そしてより多くの情報を調べるほど正解にたどり着けると思う込み、やがて迷宮に迷い込むという悪循環を起こします。

つまり、情報が常に足りないという妄想にとらわれる「情報過多シンドローム」に陥っているのです。

ヒトの大脳には前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉という四つの部位があり、前頭葉の一部である前頭前野は、脳の中枢をつかさどる司令塔の役割を果たしています。

では、なぜこの脳の「ゴミ箱」が過度に充填するのでしょうか。それは、脳の代謝率が非常に高いことによるものです。脳は体重の約2%しか消費するエネルギーですが、その約半分が脳自体で消費されています。そのため、脳の代謝率は他の臓器よりも高いのです。

脳内のゴミを捨てる方法



Profile

あまの・けいいち
1967年東京大学医学部卒。同大医学部脳神経外科入局後、米国エール大、カナダのマックギル大モントリオール神経研究所で脳科学を研究。帰国後東京大学医学部付属病院、東京警察病院等を経て、現在は東京脳神経センター、水戸中央病院で脳外外来を担当。近著に『ボケたくないければバラの香りをかぎなさい』(ワニブックス)がある。

オーバーフロー認知症は脳のキヤバシティーの問題のほか、脳の使い方も起因しています。ストレスにより脳内に不快や不信、不満などが渦巻いていると、脳が寝ても覚めてもそれらにかかりきりになってしまいます。こうした「不」の感情を想起させる記憶があるか



の役割を果たしていません。脳の中枢をつかさどる司令塔の役割を果たしていくのです。

では、いかに記憶を捨て去るにはどんな方法が有効でしょうか。まずはおすすめしたいのは「芸術」に親しむこと。ピアノやギターなどの楽器を演奏したり、絵を描いてみる。あるいはコンサートを聴きにいったり、美術館で絵画を鑑賞するのもよいでしょう。そうした高尚な事柄でなくても、カラオケで歌うだけでもよい。これらに

向き合っている最中、脳の中は空っぽになります。

次に「スポーツ」です。走るのが難しい場合は、10分で1キロ進むぐらいの速さで歩くようにします。リズミカルな運動をすると、脳内の神経細胞からセロトニンが分泌することがわかっています。

セロトニンは覚醒状態を維持する物質で、幸福ホルモンといわれるところ、脳内のモヤモヤを消して

ハッピーな気分にしてくれる。分

泌量が低下するとうつ状態になる場合もあります。

また、一定のリズムでそしゃくしたり、しっかりととした呼吸運動をしてセロトニンの分泌量は増えます。

そして「自然」とふれあうのも脳内のゴミを捨てるのに役立ちます。例えば登山をして木々の緑を見たり、川のせせらぎや鳥のさえます。

眺めたり、川のせせらぎや鳥のさえます。

五感のうち、嗅覚は最も原始的な感覚といわれ、認知症と密接な関係があります。認知症の初期段階では、匂いがよく分からなくなったりがだんだんクリアになってくるのがわかるでしょう。

えずりに耳を澄ます。なにも遠方まで出かけなくても身近に大自然があります。それは空です。たとえ曇り空でもじっと眺めれば、脳内がだんだんクリアになってくるのがわかるでしょう。

止にはバラの香りが有効です。バラには14種類もの揮発性化学物質が含まれていて、側頭葉の嗅皮質と呼ばれる部分を刺激してくれます。脳には、われわれの想像をこえる優れた機能が備わっているのです。

出口を想定し情報収集する

ここまで脳の働きについて語りましたが、会社組織に当てはめて考えてみます。

日本の1人あたり国内総生産(GDP)は先進国の中でも低く、生産性の向上が課題になっています。企業活動を支えているのは取りも直さず個々の社員の力です。その社員の脳が異常をきたし情報過多シンドromeに陥ると、適切な判断を下せなくなり、ひいては生産性や業績の低下をまねく要因となりかねません。

現代の「情報過多社会」を生き抜くうえで心がけるべきは、情報を無目的にかき集めるのではなく、アウトプットすることを想定しながら収集することです。運送会社ではトラックに荷物を積みこむとき、配達ルートを考慮して効率的な順番で搬入しているといいます。あるいは金融機関から資金を調達



する際、どう返済するかを考慮せずに借り入れを行う経営者はいないでしよう。

私も日ごろパソコンやスマート情報を調べたりしますが、シンプルな利用法を常に心がけています。

信頼できるいくつかの情報源に絞り、情報をむやみに集めたりしません。本来、二つの事柄を同時に行うのは脳に適しませんから、テレビを見ながらスマホをいじつたりするような「ながらIT」もさけるべきです。留学した米国の大學生で教わった大事な教えのひとつに、「物事を単純化するのが答えに

たどり着く上で最も大切である」があります。研究の実験手順をつくる際も、一本の直線で描けるモデルがベストなのです。

仏教の世界には「足るを知る」という言葉があります。一般的にはぜいたくを戒める言葉として解釈されていますが、情報過多に対する先人たちの警告であると私は受けとめています。いにしえの時代から情報過多によるトラブルや混乱、争いが発生していたものと想像できます。

日本人の情報との向き合い方が変わるべきになつたのが第2

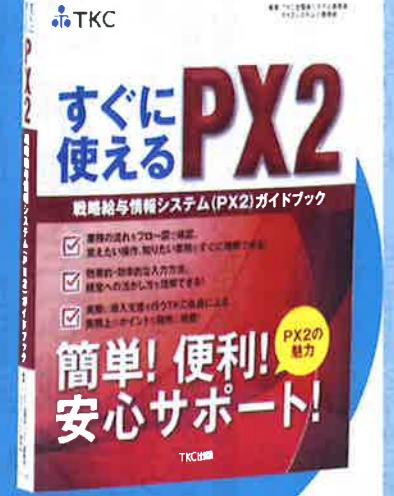
次世界大戦における敗戦です。よく知られていることですが敗北の最大の要因は情報量の差にあります。米軍は高度のレーダー探知、暗号解読能力を備えていました。山本五十六が搭乗した飛行機が墜されたのも日本軍の暗号電文が米軍により傍受、解読されたためです。日本人は情報の持つ威力を思い知ることになり、情報信仰を強めていったのです。

かつて日本では、社員運動会を開催する企業が数多くありました。ただ競い合うだけでなく、さまざまな社員の家族と会話したり

交流したりすれば、脳はおのずと活性化します。社員間の親睦を深めるだけでなく個々の人間力を高める効用もあることに、経営者たちは気づいていたのではないでしょうか。日本の中小企業では同族経営が少なくありません。いわば社長室といえる前頭前野に過重な負荷をかけないよう、顧問税理士や社外取締役など、耳の痛い事柄を忠告してくれる部外者の存在も大切です。

次世代通信規格である「5G」が日本にも遠からず導入されると聞いています。情報を入手できるスピードがいつそう速まる分、不要な情報もどんどん押し寄せてくることでしょう。無目的なデジタルデータの利用には、くれぐれも注意しなければなりません。

(インタビュー・構成／本誌・小林淳一)



TKCの会計事務所が提供している「PX2」の操作ガイドブック。実際の業務に合わせて、知りたい機能・覚えた操作をすぐに確認できる1冊。

contents

- I PX2の概要
- II 給与計算の処理方法
- III 賞与計算の処理方法
- IV ライフイベントごとの手続き
- V 月次更新(年次更新)処理の方法
- VI 算定基礎届・月額変更届の作成
- VII 労働保険料の申告
- VIII 年末調整の手続き
- IX 自社情報・社員情報の確認・登録の方法
- X 戦略情報 他

お求めは書店または直接当社HPから

TKC出版

Tel: 03-3239-0068 FAX: 03-3264-5586
<https://www.tkcsuppan.co.jp>